

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2018. 3. 13◆◆◆

\*\*\*\*\*

【 四国地方整備局 道路部長 谷村 昌史 】

昨年7月より道路部長に就いております谷村と申します。よろしくお願ひいたします。

前任地は北海道開発局、人生の大半を北海道で過ごしており自宅も札幌と少々便の悪い単身赴任生活です。自宅にほとんど帰らない分、土日は四国管内のドライブを楽しんでいます。四国勤務は初めてですが、20数年前に神戸勤務（阪神・淡路大震災を経験）、10年近く前に大分と福岡に勤務、多少の西日本経験はあります。

さて、温暖な印象が強い四国でこれだけ雪が降るのには驚きました。大分に居ながら豊後水道の向こう側でこれだけ雪が降っている事は知りませんでした。災対法による強制的な車移動の第1号が四国であったことは知っていましたが、着任後、説明で見せていただく資料や写真での雪景色に驚きました。首都高速や福井における車両の立往生が発生したこともあり、雪が降るたびに整備局の道路管理部門は緊張感を持って対応しています。

一方で色々ギャップを感じています。テレビの天気予報とかでも「明日は雪の恐れ、道路では車の立往生による交通障害が懸念されます。」というアナウンス。それ違うのでは、雪道をノーマルタイヤで走行しようとしてもスリップで車が進まない、が正解だと思います。立往生を人ごとのように捕らえています。そして四国の方々には口を揃えて「四国の人間は雪道に慣れていないから」と言われます。厳しい言い方になります。でもそれも違うと思います、冬タイヤやチェーンの装着は慣れではありません意識の問題です。

整備局としては、良好な道路管理に努めるのはもちろんですが、地域の方の意識を高めるための取組も必要と感じています。そこで思ったのが、我々もマスコミも立往生を問題視しています、しかし、雪国のドライバーが懸念するのは車が進まないことではなく止まらないことです。私自身北海道で車を運転していてぶつかりそうになったことが何度あったか、この恐怖を知ってもらう事がチェーン携行の動機付けになるのではと考え始めています。実際に1月10日から大雪の際、下り坂で交通事故が発生し大きな影響がありました。雪道のノーマルタイヤは自殺行為ですし、加害者になりかねません。これをしっかり認識していただくことが大事だと考えています。

四国で冬タイヤを装着するのはハードルが高いかもしれません。購入費用だけではなく保管場所の問題もあります、でもチェーンの携行は出来ると思います。次の冬に向けて皆様の職場等で、ノーマルタイヤでの雪道運転はしない、冬タイヤがなければチェーンの装着を、そして冬タイヤやチェーンを過信せず、スピードを出さない、余裕のある車間距離、急ブレーキ急ハンドルの厳禁、といった声かけをしていただければ幸いです。

少し耳の痛い話になったかもしれませんが、良好な道路の整備と管理に努める所存です。今後ともよろしくお願ひいたします。

\*\*\*\*\*

## 目次

- 平成29年度 四国防災トップセミナーを開催しました
- 平成29年度「河川愛護月間」“絵手紙”表彰伝達式を行いました
- 平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します！！
- 高知港開港80周年・高知新港開港20周年記念セレモニーを行いました
- 高知県警察機動隊施設の落成式を行いました
- 横瀬川ダム～平成31年度ダム完成に向けて～
- 中筋川ダム “地域に開かれたダム”

\*\*\*\*\*

平成29年度 四国防災トップセミナーを開催しました  
確実に来る大規模災害に向けて～被災自治体と災害報道の最前線より学ぶ～

【 企画部 防災課 】

- 日 時：平成30年2月1日（木）14：30～17：15
- 場 所：四国地方整備局 災害対策室（高松サンポート合同庁舎（北館）13階）
- 出席者：四国内の市町村長77名（内、代理27名）  
四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバー 等  
参加者 約300名
- 主 催：国土交通省 四国地方整備局

### ■開催概要

四国防災トップセミナーは、四国内の市町村長と四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバーが一堂に会し、防災に関する講演や意見交換を通じて見識を深め、地域防災力の向上を目指すことを目的として、平成12年度より開催しています。

今年度で18回目となる四国防災トップセミナーは、市長就任直後に東日本大震災を経験され、被災者の一日も早い住宅再建を復興の重点課題として、心のケア、心の復興に取り組まれている陸前高田市市長 戸羽太氏、また、東日本大震災をはじめ国内外の災害現場を取材、各地で起きている豪雨災害の減災報道に取り組んでこられたNHK 副部長（前災害担当記者）中村淳氏に御講演いただき、意見交換を行いました。

第1部基調講演 『災害時に行政がなすべきこと～東日本大震災の経験・教訓から～』  
岩手県 陸前高田市市長 戸羽太氏

当時30年の間に99.9%の確率で発生が予想されていた宮城県沖地震の被害想定をもとに、市民合意のもと避難所を決定、毎年防災訓練を実施する等、防災に対する意識は他の自治体に負けないくらいの自負を持っていたが、想定外の津波により、多くの犠牲者を出してしまいました。

発災後の災害対応での反省点は、情報の扱い方、捉え方でした。各種マニュアルは予想、被害を想定して作成しているものであり、想定が外れた時、機能しなくなる可能性があります。四国地方においても南海トラフ巨大地震を想定した各種数字、情報が公表されていますが、公表されている情報が全てだと考えてしまうと、予想外の事態に行動できなくなる可能性があります。

皆さんも水・食料・毛布等備蓄されていると思いますが、一番困るのはトイレです。全く飲食していないのに生理現象は必ず起きるものであり、住民の不満・不安を煽る

一番の要因となります。行政で簡易型のトイレは備蓄していますが絶対数量はないため、方策を考えておく必要があります。

震災時は市長として各関係機関に指示を出す場面に直面し困惑したため、自衛隊、国土交通省TEC-FORCE等、他の機関がどのような支援能力を持っているか、平時に確認することが重要です。

被災経験のある職員であれば、次に何をすべきか自ら判断・行動し、被災自治体の職員にもレクチャーできるため、被災を経験した自治体と協定を結ぶことも重要です。

陸前高田市では、行政にも限界があると市民が認識しており、避難所の運営を市民自ら実施いただくために避難所運営マニュアルを作成しており、津波避難訓練の中で、市民自ら避難所の設営まで実施しています。

本市では、25%以上の職員が犠牲となりました。賛否両論はあるとは思いますが、公務員といえども人であり、家族がいるわけで、やるべきことを実施した後に、一旦撤退する必要があると考えます。多くの職員が犠牲になると復旧、復興が大幅に遅れます。

本セミナーにご出席されている首長にも家族がいます。自身も妻が行方不明になりました。皆さんの家族も行方不明になる可能性があることを覚悟しておいてくださいということをお伝えしたいのではなく、職務に専念するためにも、避難場所、安否確認連絡方法を予め家族と確認しておくことが大切です。

## 第2部基調講演 『防災・減災のための報道 公共メディアの使命』 NHK副部長（前災害担当記者） 中村 淳 氏

NHKでは、放送ガイドラインにのっとり、正確で迅速な情報を伝えるために、取材と報道に全力を挙げています。

災害報道の4つの役割として、「被害の防止・軽減」、「救援活動の支援」、「生活再建・復興支援」に加え、災害の記憶が風化しないよう後世に残し、「安全な社会を構築」することが大切であると考えています。

「自分の事」と受け止めてもらうために、情報の伝え方の見直しを行っています。現場の映像が逆に視聴者に安心を伝える内容になっていないか、言葉による呼びかけの内容の見直し、アナウンサー等の表情や声の張り等の改善をはかりつつ日々訓練を行っています。さらには、東京からの全国放送でも、発災地域の細かな地名も伝えるようにしています。

本セミナーで視聴いただいた他の地域や過去の災害（九州北部豪雨、関東大震災等）、世界各地の災害（インド洋大津波）のスライド、NHKテレビ放送を通じて、もし自分の地域で発生したらと考えていただくことが大切です。

南海トラフ巨大地震のように、広範囲に影響が及ぶことが予想される災害では、地名を細かく伝えることは現時点では難しく、特に初動は広く避難を呼びかけることとなります。住民の背中を押すには、自治体の呼びかけが絶大な効果があり、NHKとの阿吽の呼吸がカギとなると考えています。

気象庁が平成29年11月1日から運用を開始した「南海トラフ地震に関する情報」は必要不可欠な情報ではありますが、異常発生だけの情報提供にとどまり、防災対応は自治体や住民に委ねられることとなります。住民が混乱し新たな災害を招く恐れも否定できないため、自治体は情報の出し方を工夫しなければいけないと思います。

情報面で想定される課題としては、デマ・フェイク等の情報であり、情報の打ち消し、早期に発見し拡散の防止を図ることもNHKの仕事であると考えています。東日本大震災での反省としては、ツイッター等の情報を確認する要員、発信されている膨大な情報をキャッチする設備、情報の信頼性を判断するノウハウの不足が挙げられます。

\*\*\*\*\*

平成29年度「河川愛護月間」“絵手紙”表彰伝達式を行いました

【 河川部 河川管理課 】

国土交通省では、平成29年度河川愛護月間（7月1日～7月31日）における活動の一環として、全国の小学生・中学生・高校生・一般の方々を対象に「川遊び～川での思い出・川への思い～」をテーマとした「絵手紙」を募集したところ864点の作品が寄せられ、国土交通本省で、有識者等で構成する選定審査会において、最優秀賞（国土交通大臣賞）等20点の入賞作品を決定しました。

このうち四国管内では、優秀賞（国土交通事務次官賞）1名、優良賞（水管理・国土保全局長賞）5名が入選し、2月に各小、中学校で徳島河川国道事務所長、香川河川国道事務所長、高知河川国道事務所長より表彰伝達式が執り行われ、受賞者の皆様に応募のお礼と受賞のお祝いの言葉を述べた後、表彰状と記念品を手渡しました。

#### 優 秀 賞（国土交通事務次官賞）

小学生高学年部門 徳島県鳴門教育大学附属小学校 5年 湯浅 聡一郎

#### 優 良 賞（水管理・国土保全局長賞）

小学生低学年部門	徳島県徳島市助任小学校	3年	湯浅	慶香
小学生低学年部門	高知県高知市立一ツ橋小学校	3年	島田	百璃乃
小学生高学年部門	徳島県吉野川市立鴨島小学校	4年	上藤	幸歩
小学生高学年部門	高知県高知市立秦小学校	4年	瀧山	凜音
中学生部門	香川県三豊市立豊中中学校	2年	菅	花音

これからも川に関する活動や川遊びなどを通じて、川への親しみを感じ、川をきれいに大事にしようという気持ちを強く抱いてもらえるよう、地域と一体となった良好な河川環境の保全・再生に努めます。

絵手紙入賞者作品は、国土交通省水管理・国土保全局HPから閲覧できます。  
<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/>

\*\*\*\*\*

平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語を募集します！！

【 道路部 】

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等各種活動を特に推進していますが、この一環として、平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集します。

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過ごされがちです。

そこで、この推進標語の募集を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識していただくことを目的としています。

詳しい募集要領は以下をご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_000932.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000932.html)

\*\*\*\*\*

## 高知港開港80周年・高知新港開港20周年記念セレモニーを行いました

### 【 高知港湾・空港整備事務所 】

高知県の産業を支える重要港湾の高知港は、今年で開港80周年の節目の年を迎えました。また、外洋に面し、外国との貿易や災害時の防災拠点の機能を果たす高知新港も開港20周年を迎えました。これを記念して平成30年2月16日、高知港開港80周年・高知新港開港20周年記念事業実行委員会の主催で記念セレモニーが開催され、220名の関係者の方々が参加されました。

セレモニー冒頭、青木章泰実行委員長（高知港振興協会会長）の開会挨拶では、昭和13年の高知港開港以来、高知県の経済が臨海工業地帯とともに高度経済成長期に急激な発展を遂げた歴史について触れられ、特に高知県の輸出を牽引してきた地元造船業界の活躍についてお話がありました。中でも高知県産業界の悲願であった高知新港の開港が取扱貨物量を飛躍的に伸ばし、近年ではクルーズ客船の寄港数も大幅に増加してきた歴史を振り返り、港の賑わいを継続するためにも観光地とクルーズ客船をつなぐ交流拠点のあり方を模索することが今後の高知港、高知新港の発展に必要であるとのお話がありました。

続いて尾崎正直高知県知事の来賓挨拶では、はじめに高知港にかつて多く就航していたフェリー航路が2005年に全て撤退したときに感じた寂しさに触れられました。しかし、その後の多くの関係者の尽力によりコンテナ取扱量が飛躍的に増加したこと、高知新港の水深12m、11m連続バースの供用後にクルーズ客船が多数寄港するようになった発展の歴史についてお話がありました。昨年、高知県が策定した第2期高知新港振興プランの紹介があり、現在はそのアクションプランを練る中で、新たな客船ターミナルを造り、バルク貨物スペースの効率的な配置や高台への企業誘致など具体策が検討されていくとのお話がありました。

続く岡崎誠也高知市長の来賓挨拶では、藩政時代から土佐藩は材木、珊瑚、石灰石を主力産業とし、大阪で高く売れる材木を運ぶために港湾が栄えた高知県の歴史が紹介されました。貨物船や客船の大型化が進む中で高知港の内港に入港できない船が増えたことから、外港に高知新港ができた経緯など、高知港を中心とした地域発展の歴史が振り返られました。近年増加しているクルーズ客船の寄港により、高知市内でも外国人観光客が見られるようになり、高知城やひろめ市場といった主要観光地が高い評価を得ている中で、外国人観光客のニーズに合わせ、カードでの買い物ができる環境整備や日本人形などの商品を取り扱う商店を配置するなど、具体的な今後の政策についてお話がありました。

浅輪大臣官房技術参事官の来賓挨拶では、高知港開港前の昭和4年に遡り国の直轄事業の歴史が振り返られました。内港整備により浦戸湾内にセメント、造船、化学等の工場、油槽所等が立地し、入港船舶の大型化が図られ、鉄鋼業に不可欠な良質な石灰石の積出港として重要な港湾に発展した経緯が述べられました。今では外洋に高知新港が整備され、国際フィーダー航路の開設やクルーズ客船の寄港急増など、高知新港の物流・交流拠点としての役割が増大したこと、また、南海トラフ地震、津波への対策として耐震強化岸壁が整備され、今後は背後地域を効率的・効果的に防護するために「三重防護」による海岸保全施設の整備が進められるとのお話がありました。

その後、海事関係者への感謝状記念品贈呈と、クルーズ客船の動向をテーマにした記念講演が行われました。

感謝状記念品贈呈では、高知港の80年の歴史の中で活躍された海事関係者の方々へ青木実行委員長より感謝状と記念品が贈られました。受賞者を代表して高知県鉱業会の金子恵巳会長よりご挨拶があり、石灰石の移出において高知新港の水深12m岸壁が供用されて以降、関東方面の製鉄会社に販路が拡大したエピソードが紹介されました。高知港では今後、貨物需要の増加が見込まれる中、近年のクルーズ客船の寄港増加との共存を図り、港湾の混雑緩和に向けた検討を期待したいとのお話がありました。

株式会社カーニバル・ジャパンの堀川悟代表取締役による「クルーズ市場の現状と寄港地に求められること」と題した記念講演では、近年、高知港への寄港数が大幅に増えている大型クルーズ客船の動向についてお話がありました。今後、高知港では更なるクルーズ客船誘致に向けて、船舶大型化や外国人観光客への対応など様々な取り組みが進展することが期待されます。

セレモニー終了後は引き続き懇親会が開催され、当局の池田次長が来賓挨拶をいたしました。山本有二衆議院議員、広田一衆議院議員、高野光二郎参議院議員からも来賓挨拶を頂き、80年を振り返るスライドが投影される中、歴史を振り返るとともに今後のますますの発展に向けた話に花が咲く、盛大な会となりました。

\*\*\*\*\*

## 高知県警察機動隊施設の落成式を行いました

【 営繕部 】

営繕部において整備を進めてまいりました高知県警察機動隊施設が昨年末に無事完成し、2月16日に高知県警察本部の主催により落成式が執り行われました。当日は高知県警察本部長による式辞に続き、営繕部長（局長の代理出席）が施設概要説明を行い、高知県知事（代理出席）及び四国管区警察局長等の祝辞が行われました。落成式終了後、新設したレンジャー訓練塔を使って隊員が訓練する様子も公開されるなど、新たな施設での業務の門出を祝いました。

施設整備にあたり、機動隊の活動形態を踏まえた効率的かつ機能的な配置、平面計画とするとともに、十分な耐震安全性と災害時における電気・水などのインフラ機能を確認し、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時における災害活動拠点施設としての機能維持を図るための整備を行っています。また、隣接する警察学校との調和を図りつつ、訓練設備を敷地南側に配置するなど近隣住宅地に対しても配慮を行う計画としました。

### 〈施設概要〉

庁舎 : 構造RC-3、延べ面積約2,150平方メートル、  
潜水訓練棟 : RC-3、延べ面積約320平方メートル、  
レンジャー訓練塔

\*\*\*\*\*

【 中筋川総合開発工事事務所 】

中筋川総合開発工事事務所では、渡川水系中筋川流域の治水・利水及び流水の正常な機能の維持を目的とした、横瀬川ダムの建設と中筋川ダムの管理を行っています。

### ○横瀬川ダム “平成31年度ダム完成に向けて”

横瀬川ダムは、平成2年に建設事業に着手、平成21～24年度にかけてのダム検証といった紆余曲折を経て、平成28年6月、ダム本体建設工事を契約し、11月に起工式を行い、平成29年12月3日には、定礎式を行いました。

現在、本体コンクリート打設を行っているところで、昨年5月の初打設から今年2月末現在約58,000m<sup>3</sup>の打設を行い、約35%の進捗となっています。工事

は、今秋の打設完了を目指して、日夜打設を行っているところです。また、それに合わせて管理設備や管理庁舎、付替市道などのあらゆる工事が進行しています。平成31年度末の完成に向け職員一同頑張っています。なお、工事の進捗については、当事務所ホームページ内の工事ブログ「横瀬川ダム工事を見に行こう！！」にて紹介しています。（<http://www.skr.mlit.go.jp/nakasuji/kouji/index.html>）

また、横瀬川ダムの広報として「なつやすみ現場見学会」や各種の団体（学校・地元住民等）の見学会を行っています。現場の近くには見学所を開設しており、一般の方々に開放しています。ダムの建設現場は、今しか見られない工事ですので、ぜひお気軽にお越しください。

事務所のホームページには、ダム工事についてオリジナルキャラクターとともに紹介した絵本「よこぜがわダムの工事」を制作し、掲載しています。興味のある方は、ぜひご覧下さい。（<http://www.skr.mlit.go.jp/nakasuji/kouji/ehon.html>）

## ○中筋川ダム “地域に開かれたダム”

中筋川ダムは、地域に開かれたダムとして、蛍湖まつり、ダム見学会など様々な取組や情報発信を行っています。

今年は小学校の社会科見学や団体などダムの見学に約300名の方が訪れてくれました。

また、毎月第4土曜日を「中筋川ダムの日」として、ライトアップ・洗浄放水・噴水・ダム内部見学会（予約制）を行っており、多数の方が訪れてきています。

今後も「地域に開かれたダム」として、地域の活性化のための様々な取組と情報発信を行っていきます。

\*\*\*\*\*

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

\*\*\*\*\*

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>

\*\*\*\*\*